

# 「お金を社会に活かす仕組みを」 日本の銀行王

やすだ ぜんじろう  
安田 善次郎



## 一生を決めた出来事

「立派なかごだなあ。誰が乗っているのだろう」  
野菜や花を売って歩いた帰り、安田善次郎少年は立派なかごを見かけました。富山藩の武士（さむらい）が、かごにしがたって歩いています。

「あれには、大阪の商人が乗っているんだよ」  
「えっ、商人がかごに乗って、武士が歩いているなんて！」

「殿様が商人から大金を借りているから、殿様の家来がわざわざ見送っているのさ」

善次郎さんは、目の前の光景がとても信じられませんでした。当時（江戸時代）は、商人は武士よりも低い身分と考えられていたからです。

武士の中にも身分の差があり、下級武士の家に生まれた善次郎さんは、小さいころから、自分より身分の高い武士にしたがうことを、厳しく教え込ま

善次郎さんは、武士の家に生まれただけで、商人の道をめざしたんですって。

安田善次郎さんは、明治時代の初めごろ、銀行や保険会社などをおこして、お金を社会に活かす新しい仕組みを作ったんだ。

どうして善次郎さんは、商人をめざしたのかな？

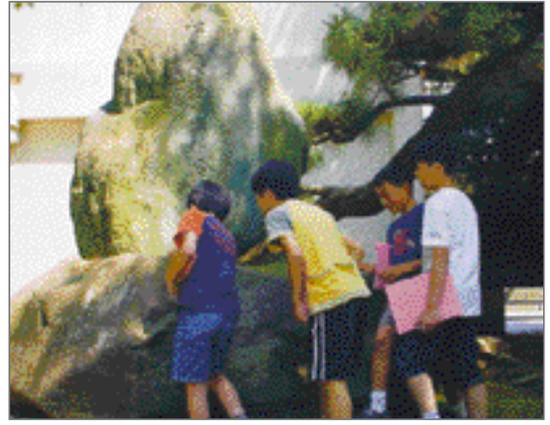
お金の力とは、すごいものだ。これからは、お金が社会を大きく変えていくだろう。私も、そんな大きな力をもつ大商人になりたい。



### 3 仕事を起こそう

西暦	年齢	
1838年		鍋屋小路(現在の富山市)に生まれる
1858年	20歳	江戸に出て、おもちゃ問屋や海産物問屋などに奉公する
1864年	26歳	「安田屋」をおこす
1866年	28歳	店名を「安田商店」に改める
1880年	42歳	安田銀行をおこす
1882年	44歳	日本銀行の理事に就任する
1893年	55歳	帝国海上火災保険会社をおこす
1914年	76歳	富山市立職工学校や商業学校に寄付をする
1921年	83歳	東京大学に講堂を寄付する 亡くなる

安田善次郎さんの三十二年表



安田記念公園にある善次郎さんの記念碑を見る富山市立愛宕小学校6年生のお友達。

「町で自分より身分の高い武士に出会うと、雨が降っていても、雪がつもっていても、下駄をぬいて、土下座してあいさつをしなければならぬの…」

善次郎さんは、そうした厳しい身分制度を簡単に打ち壊すようなお金の力にびっくりしました。

これからは、お金が中心になって世の中が動いていくに違いない。よし、将来、私は国を動かすような大商人になろう。

こうして、善次郎さんは、商人になることを固く心に誓ったのでした。

**商人の道を選んで、江戸へ**

「私は、江戸へ出て、商人になりたいと思います」「なに、お前は武士の家の子だ。絶対にいかんぞ!」

善次郎さんのお父さんは、息子の商人になるという夢に大反対でした。それでも善次郎さんは、少年のころに見たあの光景が忘れられません。

江戸へ出て、絶対に商人になるんだ。

そう思いつめた善次郎さんは、何度モ家出をしましたが、そのたびに説得されたり、連れ戻されたりしました。



善次郎さんが経営した帝国海上火災保険会社。

「よし、まずはでっち奉公して、商売に必要なことは何でも覚えよう!」

このとき善次郎さんは、自分自身に三つの誓いを立てました。

それは、他人に頼らず真面目に働くこと、いつも正直であること、収入の8割で生活して、あとは貯金しておくことでした。

善次郎さんは日本橋のおもちゃ問屋で3年働き、その後、海産物と両替商を営む店でも3年間、がんばりました。

この6年の間、善次郎さんは、寝る間も惜しんで働きました。そして、大切なお金をこつこつと貯めていったのです。

25歳になった善次郎さんは、いよいよ商人として独立することにしました。

最初は、道ばたで戸板に小銭を並べた両替の商い



善次郎さんの店の封金(2分金が100枚入っていました)。



## 子どもたちの感想

富山市立愛宕小学校5・6年生のお友達の感想です。

善次郎さんは、強い信念があり、国や人のために尽くした人だと思っています。善次郎さんは、役に立ちそうなことや、人が困っているときには、惜しみなくお金を使っていたそうです。私はこれまで、お金持ちは他人のためにお金を使うことを嫌がるイメージをもっていました。が、努力しない人にはお金を貸さないという善次郎さんは、きちんとしたすてきな心の持ち主だと思いました。

(5年 木元喜子さん)

善次郎さんは、幼いとき、岩瀬のほうまで花を売りに行きました。その売ったお金で、帰りに珍しいものを買ってきて、それをすこし高い値段で売って、お金をためました。とても頭がいいと思います。

(6年 室谷浩希さん)

善次郎さんは、愛宕神社の鳥居のお金を寄付したり、東京大学の講堂を建てるためにお金をだしたりして、世の中の慈善事業に、とても力を尽くしました。ぼくは、えらいなあと思いました。

(6年 沖野漱志さん)



富山市立愛宕小学校のお友達が、旧安田生命の会長である大島雄次さんから、善次郎さんのお話を聞きました。

をしましたが、翌年には、海産物と両替の商いをする「安田屋」を始めました。

それは小さなお店でしたが、善次郎さんにとって、夢の実現への本格的な第一歩でした。

## 銀行家として活躍

「たとえどんなに貧しい人でも、私の店に一步入った人は、みんな大切なお客さんだ」

善次郎さんは、この店よりもお客さんを大切に、ていねいに頭を下げて対応したので、お客はどんどん増えました。

やがて、善次郎さんは店の名前を「安田商店」に変え、両替の商いに専念することにしました。その間も、最初の誓い通り、熱心に正直に仕事をしたので、善次郎さんへの信用は高まっていきました。

ちょうどそのころ、時代は江戸から明治へと変わり、世の中の仕組みにも大きな変化が起こりました。明治政府の公金を扱うという、大きな仕事を引き受けるまでになっていた善次郎さんは、銀行家として、さまざまな仕事に取り組みました。

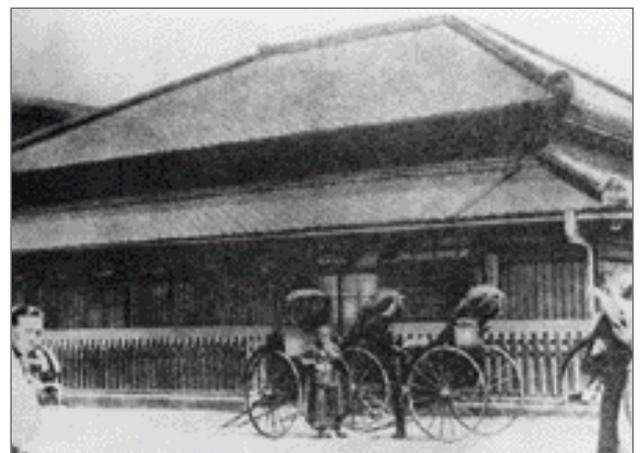
第三国立銀行の頭取（銀行の代表者）を務めたり、日本銀行の創立に力を尽くしたりしたのです。また、「安田商店」を「安田銀行」と改め、本格的な金融業に乗り出しました。

「日本の発展には、電気が必要です。電燈会社を立ち上げるための資金を、ぜひ貸していただきたい」「鉄道を敷く計画に協力してください」

善次郎さんのもとは、事業をおこしたいと夢見る人々が集まってきました。



善次郎さんが、一日の中で大切にしようと思っていたことを書き記した書。  
 今日一日、お父さんや先生などへのご恩を忘れず、不平を言わないこと  
 今日一日、決して腹を立てないこと  
 今日一日、嘘を言わず、無理な願いをしないこと  
 今日一日、人の悪口を言わず、自分の自慢をしないこと  
 今日一日、いのちがあることを喜び、仕事を大切にすること



合資会社時代の安田銀行本店。



**善次郎さんに関する資料**：明治安田生命保険相互会社（旧安田生命）の2階展示室には、善次郎さんに関する写真や資料などが展示されています。善次郎さん直筆の書や絵、愛用した品なども飾られています。

安田善次郎さんが  
見込んだ事業家

浅野 総一郎



安田善次郎さんが資金の協力をした人々の中で、特に親しくつき合ったのが、同じ富山県出身の浅野総一郎さんでした。

商人として成功したいという熱い思い、さまざまな新しい工夫を試みる努力、時代の先を読む商人としての目。

善次郎さんは、誰も考えつかないようなアイデアで、つぎつぎと事業を成功させる総一郎さんの腕と度胸にほれ込み、「この男となら、歴史に名を残すような大きな事業が成し遂げられるだろう」と感じていたのです。

実際、総一郎さんは赤字続きだった官営のセメント工場を、5年間でそれまでの5倍の利益を上げるまでに成長させていました。

総一郎さんは、善次郎さんの援助を受けて、さまざまな事業に取り組みました。外国航路をもつ船会社の設立も、そのうちのひとつです。

東京湾に、大型船が着岸できるような、設備の整った工業地帯を造りたいという計画を総一郎さんが練ったときにも、善次郎さんはお金を惜しまずに援助しました。

総一郎さんは、庄川の水力発電にも力を注いだそうです。



### 社会にお金を活かす

当時、西洋の国々から大きな機械を輸入して工場を造りたい人、大型の船を購入して商売を始めたい人など、新しい仕事に取り組みようとする人がたくさんいたのです。

善次郎さんは、そういった人々の商売の才能や人からなども参考にしながら、その分野が發展するかどうかなどを見極めて、さまざまな事業に資金を提供しました。

善次郎さんは、銀行の仕事に取り組み一方で、大きなお金が動くこれからの時代は、お互いに助け合う仕組みが必要になると考え、火災保険や海上保険などを扱う保険会社をつくりました。

その後も、善次郎さんは熱心に仕事に取り組み、大きな成功を収めました。今のお金に直すと、およそ3000億円になるといわれる財産を、一代で築きあげたのです。

莫大なお金を手にした善次郎さんは、それを社会のために使おうと考えました。

東京大学に講堂を寄付したり、日比谷公会堂を寄付するなど、文化や教育などの發展に力を尽くしたのです。ふるさと富山にも、職工学校や商業学校などの学校を建てるために、たくさんのお金を寄付しました。

大きな力をもつ、お金持ちの商人になりたい。善次郎さんは、自分の夢を実現しただけでなく、お金の力を利用して、明治時代の日本の發展に尽くしたのでした。

江戸に出てきたときの、三つの誓いもずっと守ったんだって。本当にすごいな。



善次郎さんは、50年以上、一日も欠かさず日記をつけていたんだよ。



善次郎さんについて調べたことを、富山市立愛宕小学校6年生のお友達が発表しました。

新しい仕事に  
取り組むには、今までとは  
違ったアイデアが必要です。  
次のページでは、さまざまなアイデアで、  
人々を楽しませる事業をおこした正力松太郎さん  
を紹介します。